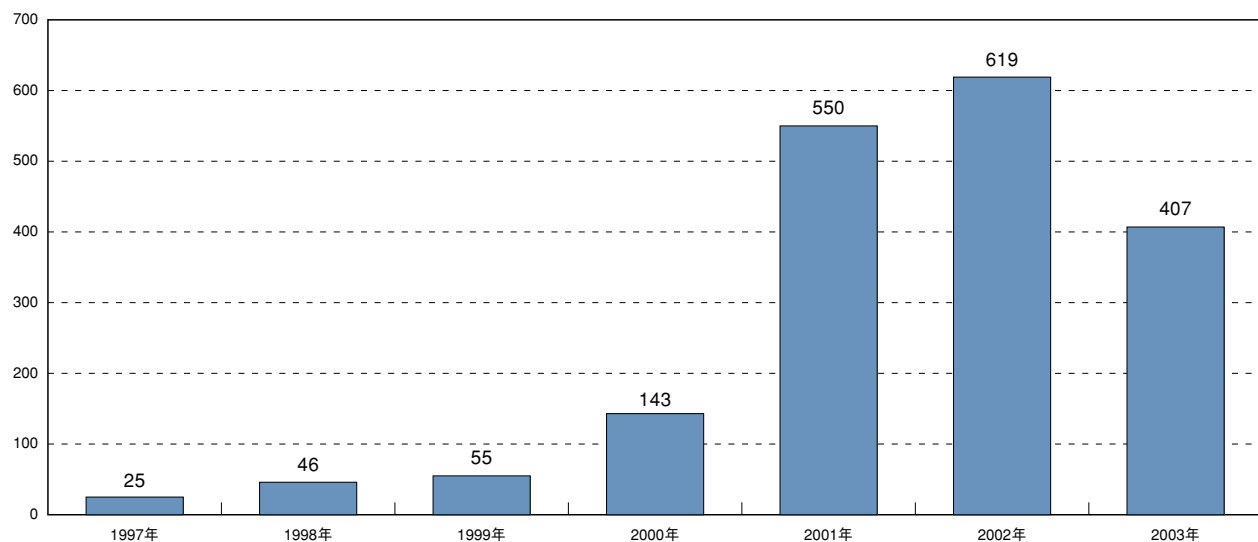


## 不正アクセス

## 不正アクセスの届出数は前年度比34%減

資料7-3-3 不正アクセス届出件数推移(1997年-2003年)

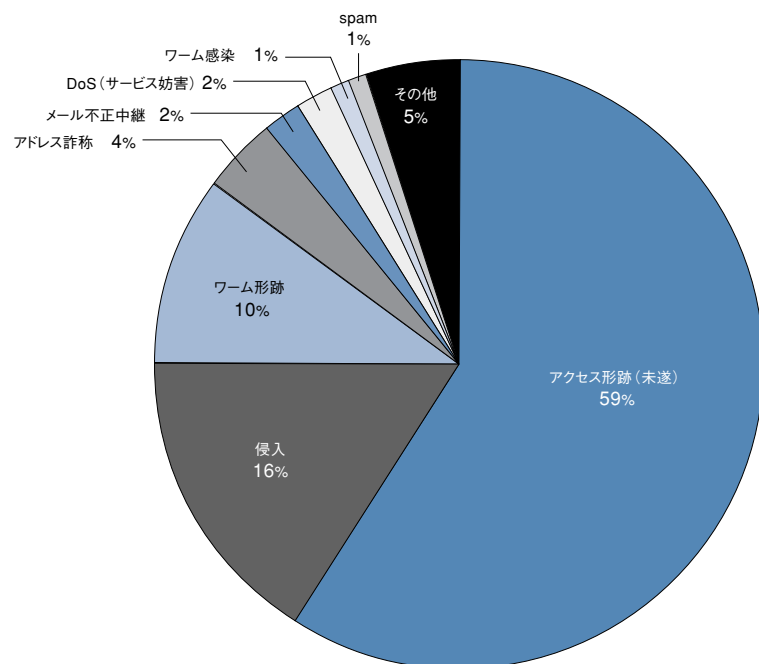


出所 IPA「2003年不正アクセス届出状況」2004年1月

2003年の不正アクセスの届出数は407件で、前年の619件に比べ34%減少しており、前々年の550件と比較しても26%減少している。セキュリティホール対策が浸透しつつあることが、減少を助けていると思われる。

## 「アクセス形跡(未遂)」最多、「ワーム形跡」は実数増加

資料7-3-4 2003年不正アクセス届出の種類



届出種別中の最多は、サーバーのログやファイアウォールのログに不正アクセスの痕跡を認めた「アクセス形跡(未遂)」の59%である。次いで「侵入」16%、「ワーム形跡」10%と続く。1,2位の2項目は実数が前年より減少しているが、「ワーム形跡」は若干ながら実数が増加している。2003年8月に発生し蔓延したW32/MSBlasterなどの影響が指摘される。

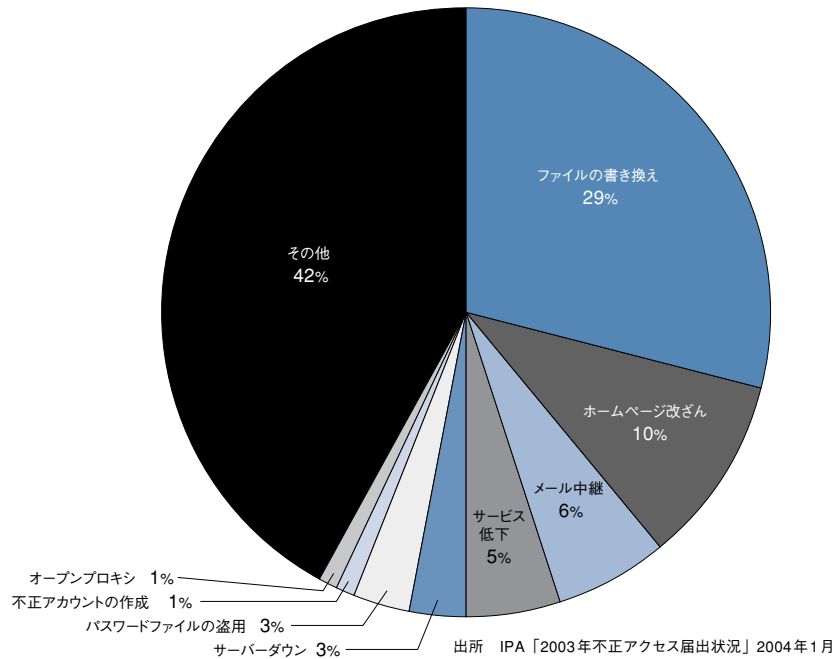
出所 IPA「2003年不正アクセス届出状況」2004年1月

インターネット白書 / ©1996-2012 Impress R&amp;D

## 不正アクセス

## 被害のトップ3は「ファイル書き換え」「ホームページ改ざん」「メール中継」

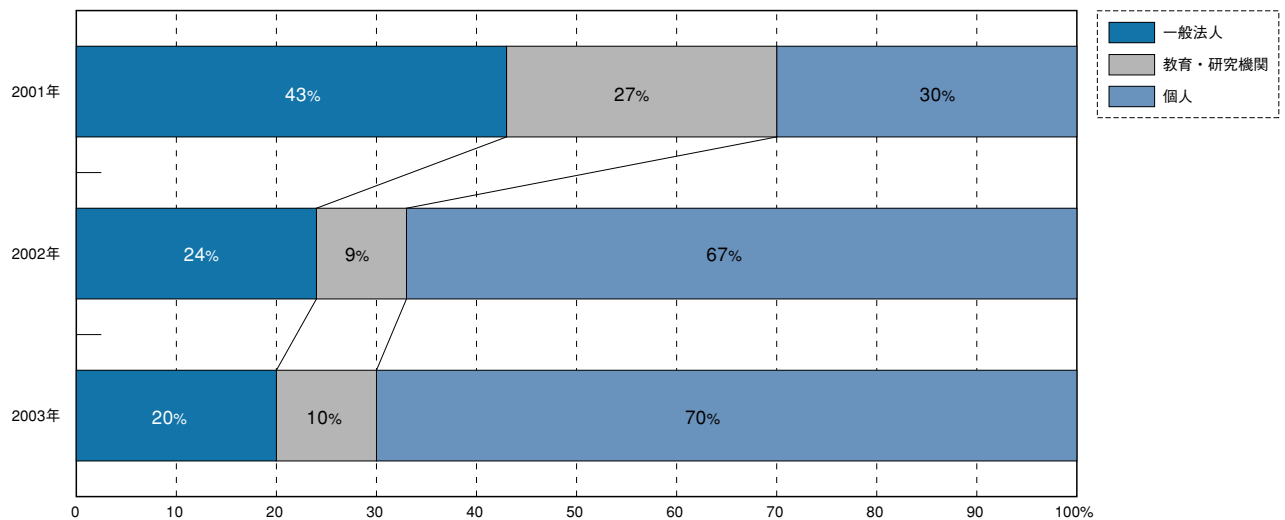
資料7-3-5 2003年不正アクセス被害の種別



被害内容を種別に見ると、最多は「ファイルの書き換え（プログラムの埋め込み含む）」29%、次いで「ホームページ改ざん」10%である。スパムメールの踏台（中継地）として利用され、スパムメールをばら撒く加害者にされてしまう「メール中継」は9例あり、3位である。

## 被害の届出者は「個人」が7割を占める

資料7-3-6 不正アクセス届出者の内訳

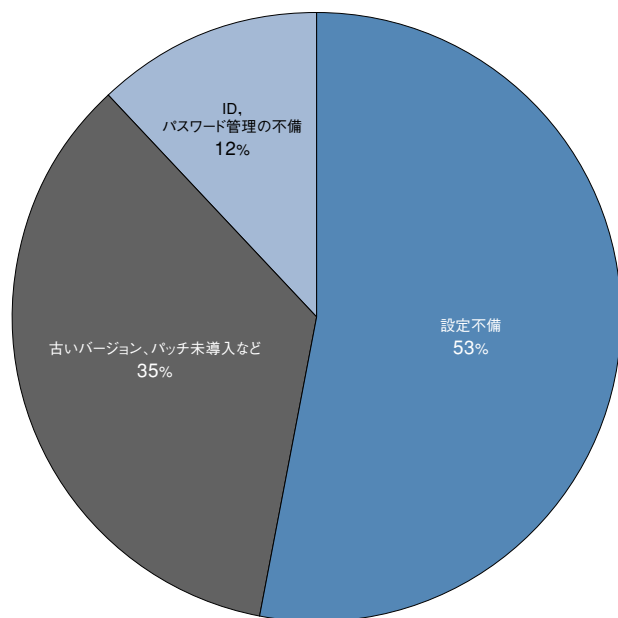


届出者の内訳は「個人」が前年の67%を上回り70%となった。前々年の30%と比べると著しい増加である。一般家庭に常時接続環境が普及したこと、またネットワークゲームやファイル交換ソフトが普及したことなどが、不正アクセスによる個人ユーザーの被害増加、届出者増加につながっていると見られる。

## 不正アクセス

## 被害原因はセキュリティの「設定不備」が過半

資料7-3-7 2003年の不正アクセス被害原因

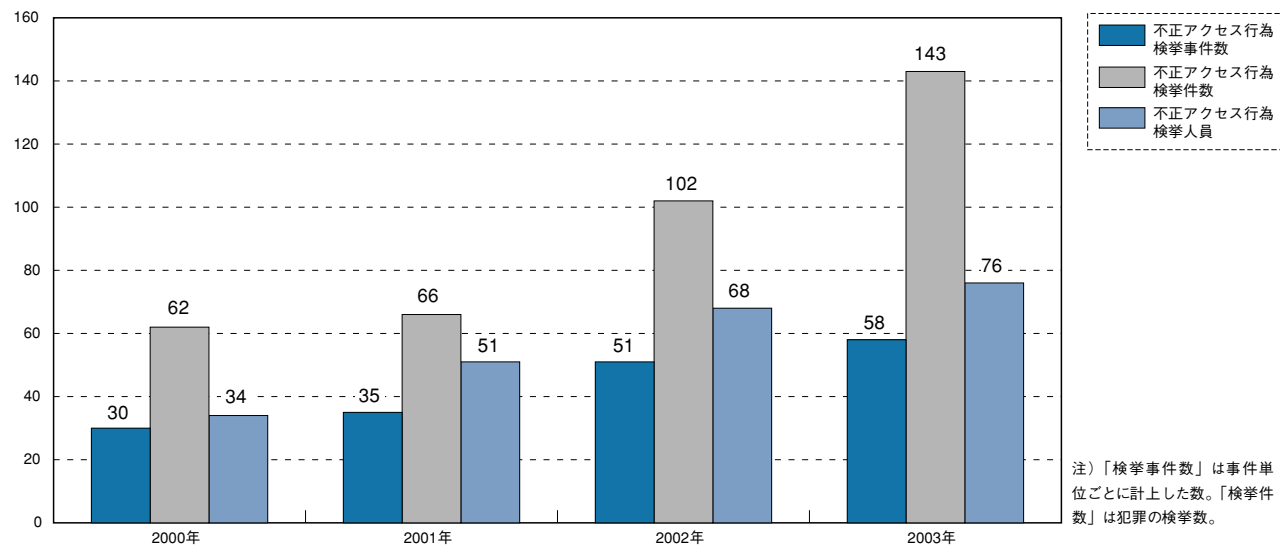


出所 IPA「2003年不正アクセス届出状況」2004年1月

不正アクセスの被害原因をみると、「設定不備」が53%と過半を占める。システム管理ではルーターやファイアウォールの設定、アクセス制御設定、個人ユーザーではID・パスワードの設定、無線LANのセキュリティ設定などに留意するよう注意が呼びかけられている。また「古いバージョン、パッチ未導入」も依然として多く、「ID・パスワード管理の不備」も12%ある。

## 検挙数は増加、ほとんどは盗んだIDでゲームなどをする「識別符号窃用型」

資料7-3-8 不正アクセス禁止法違反の検挙状況



出所 警察庁「不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況」2004年3月

不正アクセス禁止法違反による検挙数は増加しており、2003年に検挙された「事件数」は58件、「検挙件数」は143件、「検挙人員」は76人（うち成人60人、少年16人）である。このうち56事件（141件）は他人のID・パスワードを盗んでオンラインゲームをしたりオークションを利用したりする「識別符号窃用型」である。



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)